

令和4年度
第1回総合教育会議

令和4年7月6日

不登校支援の充実のために
～小学校校内適応教室開設に向けて～

教育支援課

本日の内容

- 不登校児童生徒の割合の推移等
- 社会的な背景要因等
- 今後に向けての取組
～小学校の校内適応教室について～

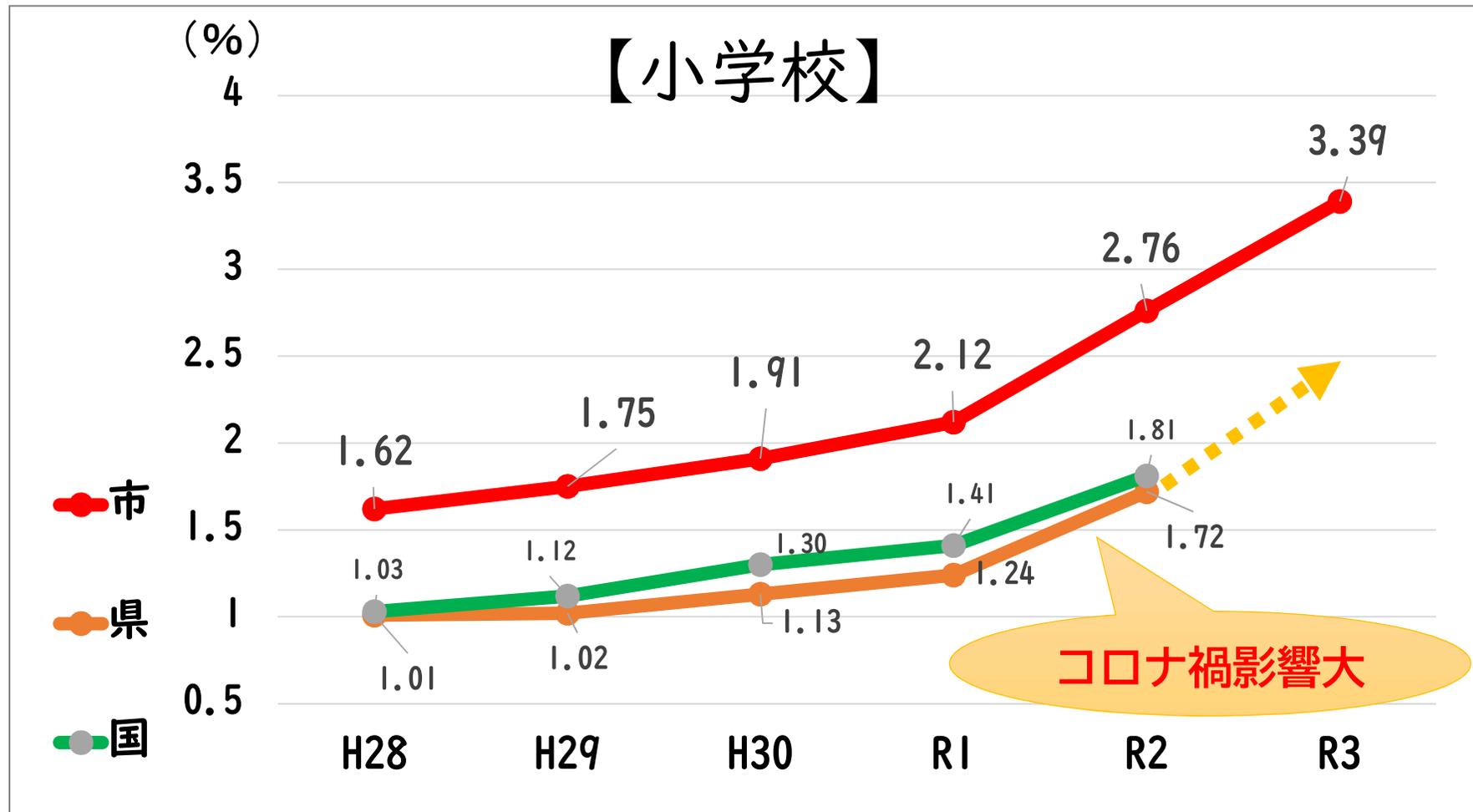
令和2年度 全国の不登校児童生徒

- ◆不登校児童生徒数:196,127人
- ◆8年連続の増加。過去最多。
- ◆90日以上欠席者:107,771人
不登校 児童生徒の約55%

※いじめや暴力行為は、大幅減少。

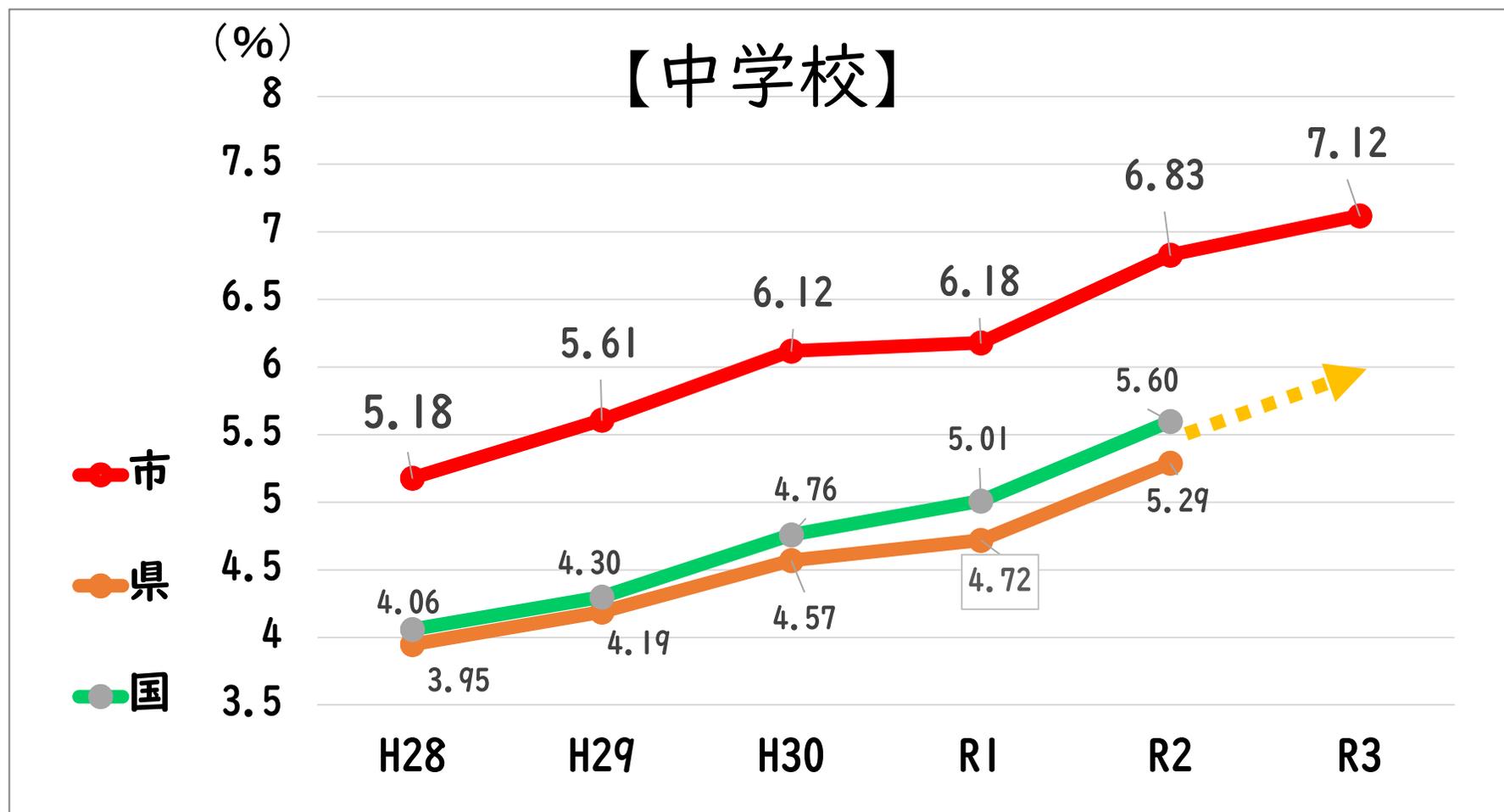
- 「長期欠席」…年間30日以上の欠席
「病気」「経済的理由」「**不登校**」「その他」
- 「**不登校**」…心理的・情緒的・身体的,あるいは,
社会的要因・背景により,登校しない,あるいは,
したくてもできない状況

長期欠席の割合の推移【小学校】



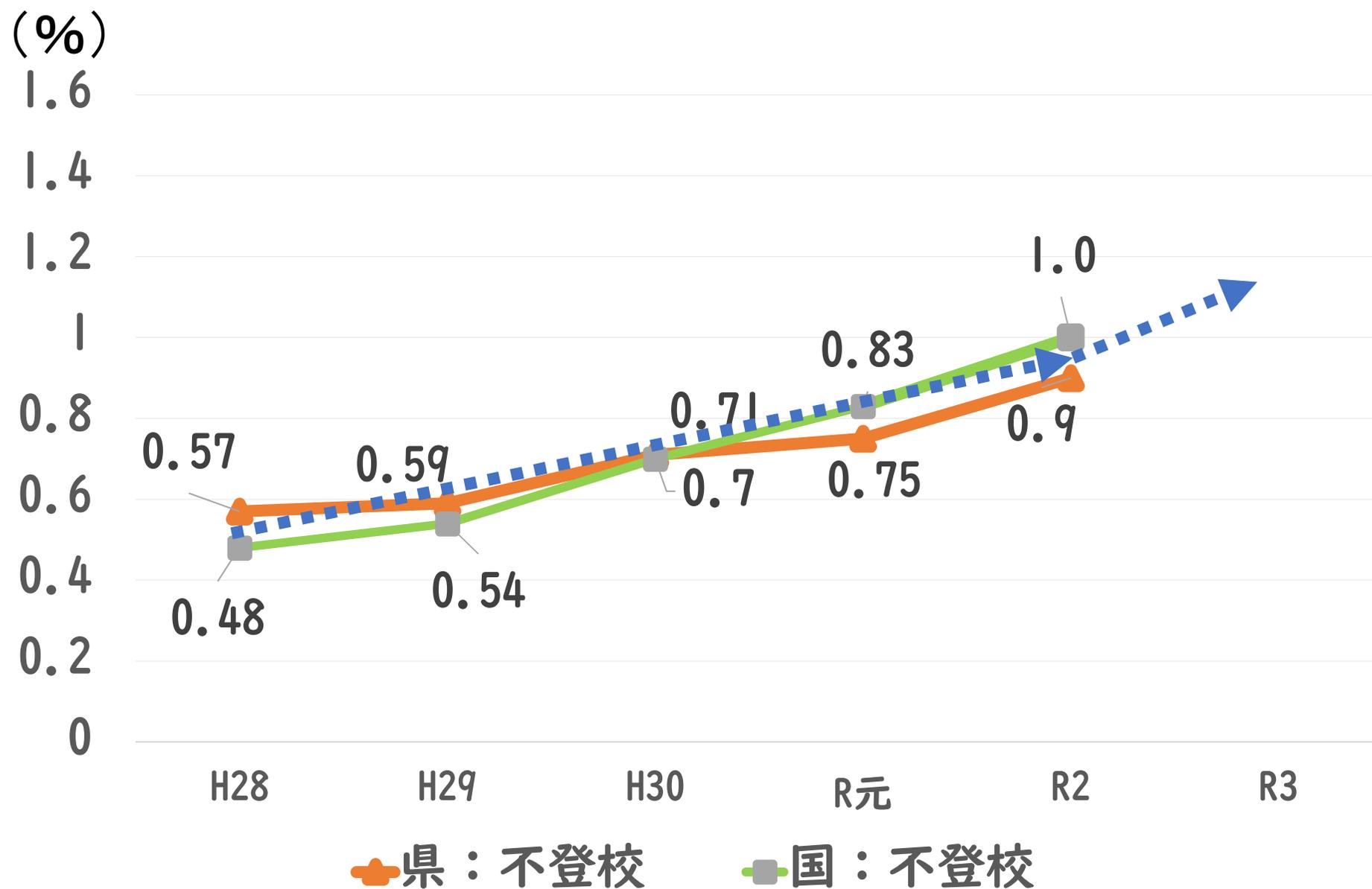
増加傾向。令和3年度も増加が予想される。
鈴鹿市の長期欠席は、県や国と比べても高い割合

長期欠席の割合の推移【中学校】

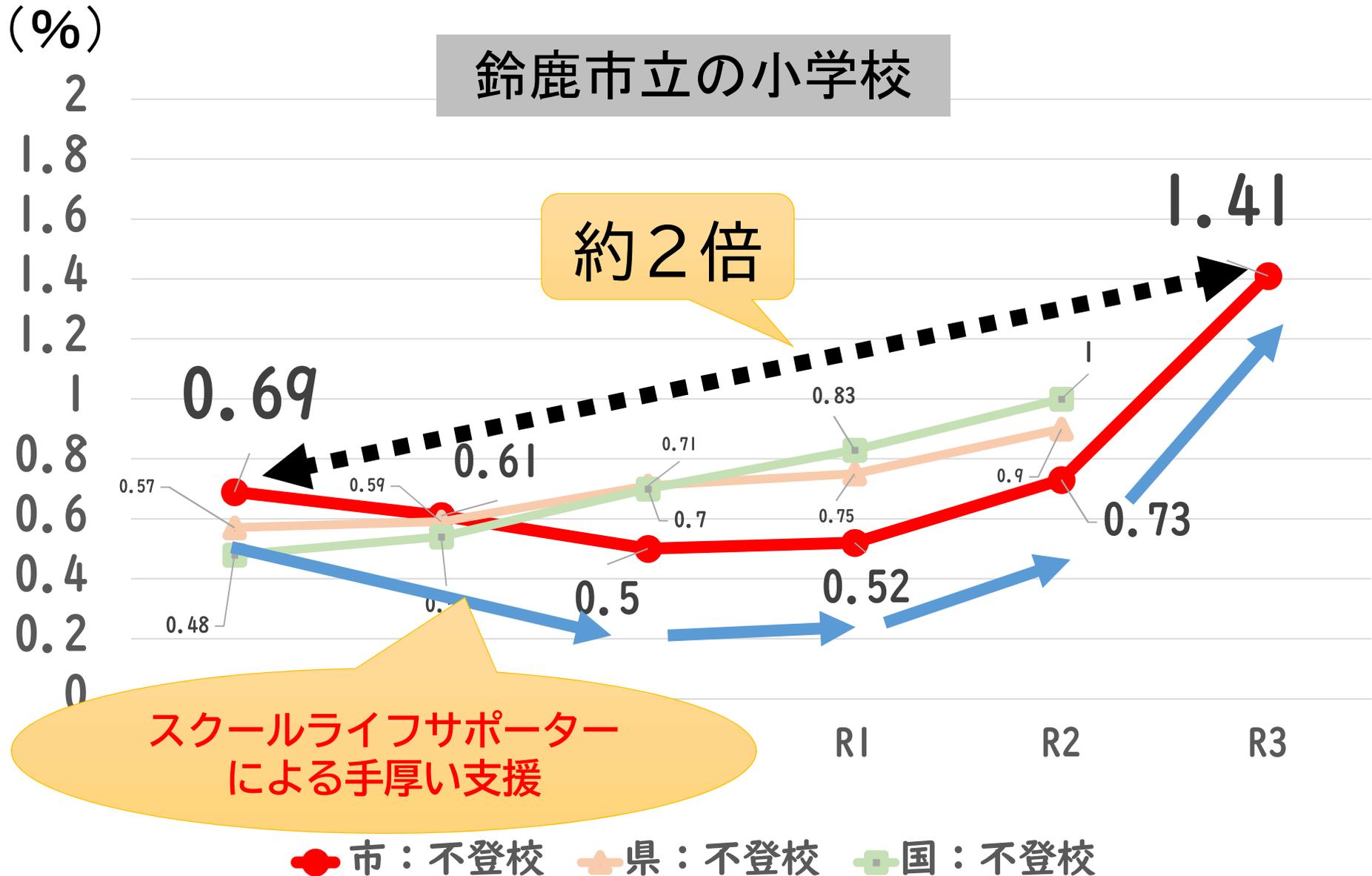


令和3年度, 国, 県についても, 増加が予想される
鈴鹿市の長期欠席は, 県や国と比べても高い割合

不登校児童生徒の割合の推移(小学校)



不登校児童生徒の割合の推移(小学校)



【本市】不登校児童生徒の割合の推移

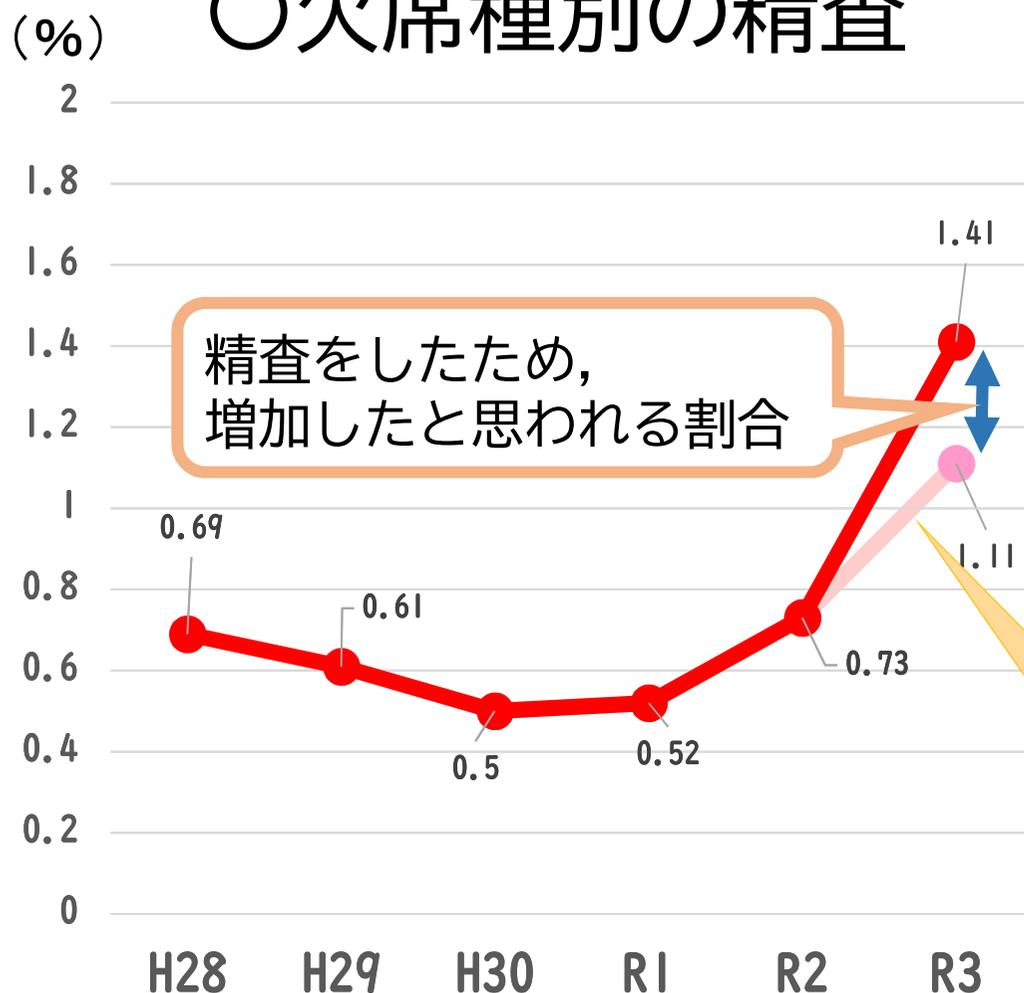
◆小学校不登校児童 増加の要因

- コロナ禍による影響（体調不良等）
 - ・少しの体調不良でも休ませる
 - ・行事の縮小，中止などによる児童生徒のストレス
- 心理的虐待（面前DV等）の増加の影響
 - ・おうち時間の増加
 - ・小学生の影響が比較的大きい

【本市】不登校児童生徒の割合の推移

◆小学校不登校児童 増加の要因

○欠席種別の精査



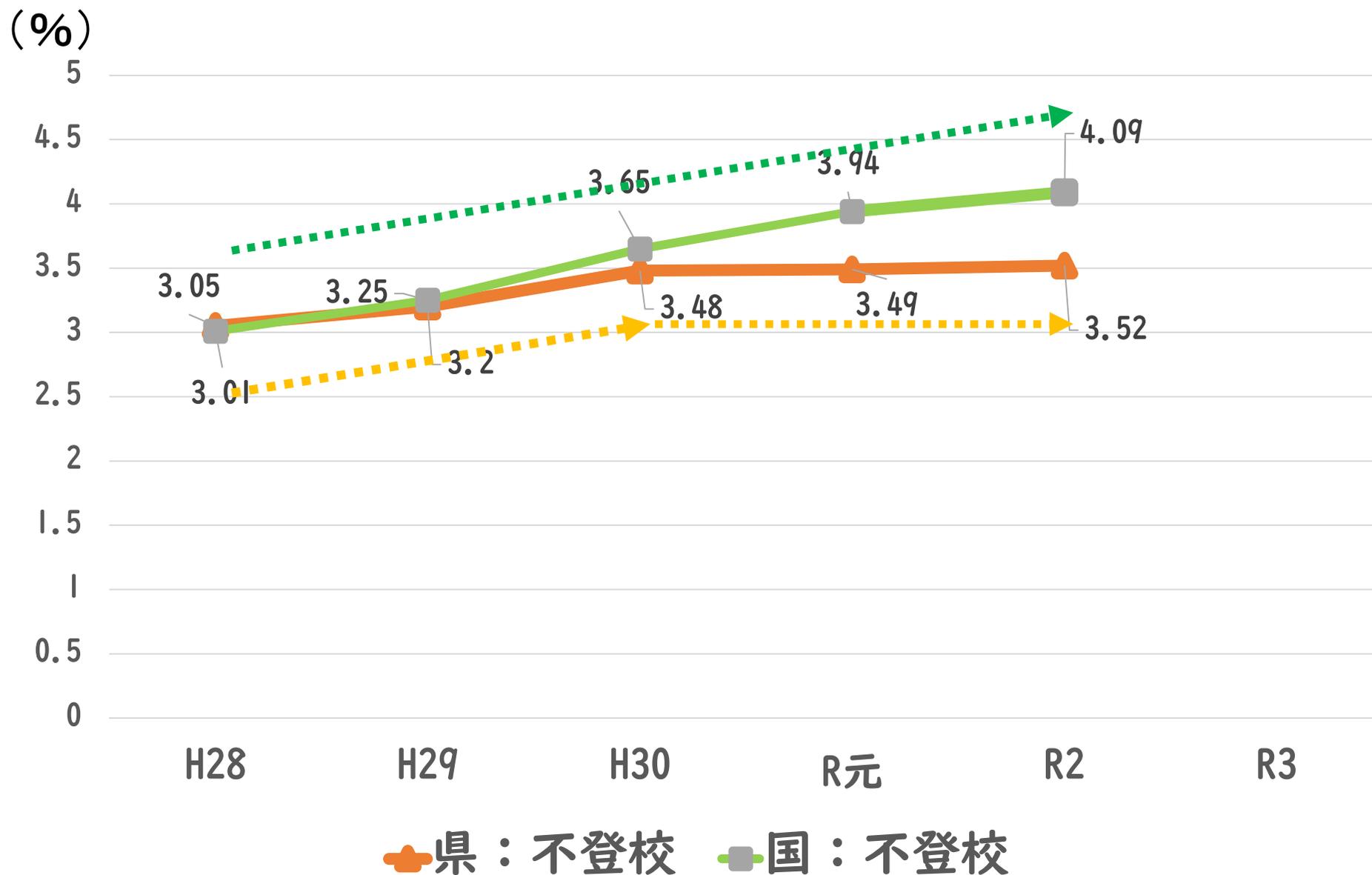
- ・ 体調不良 → ~~病気~~
↳ 不登校
- ・ 理由が複数 → ~~その他~~
↳ 不登校

適切な理由の把握

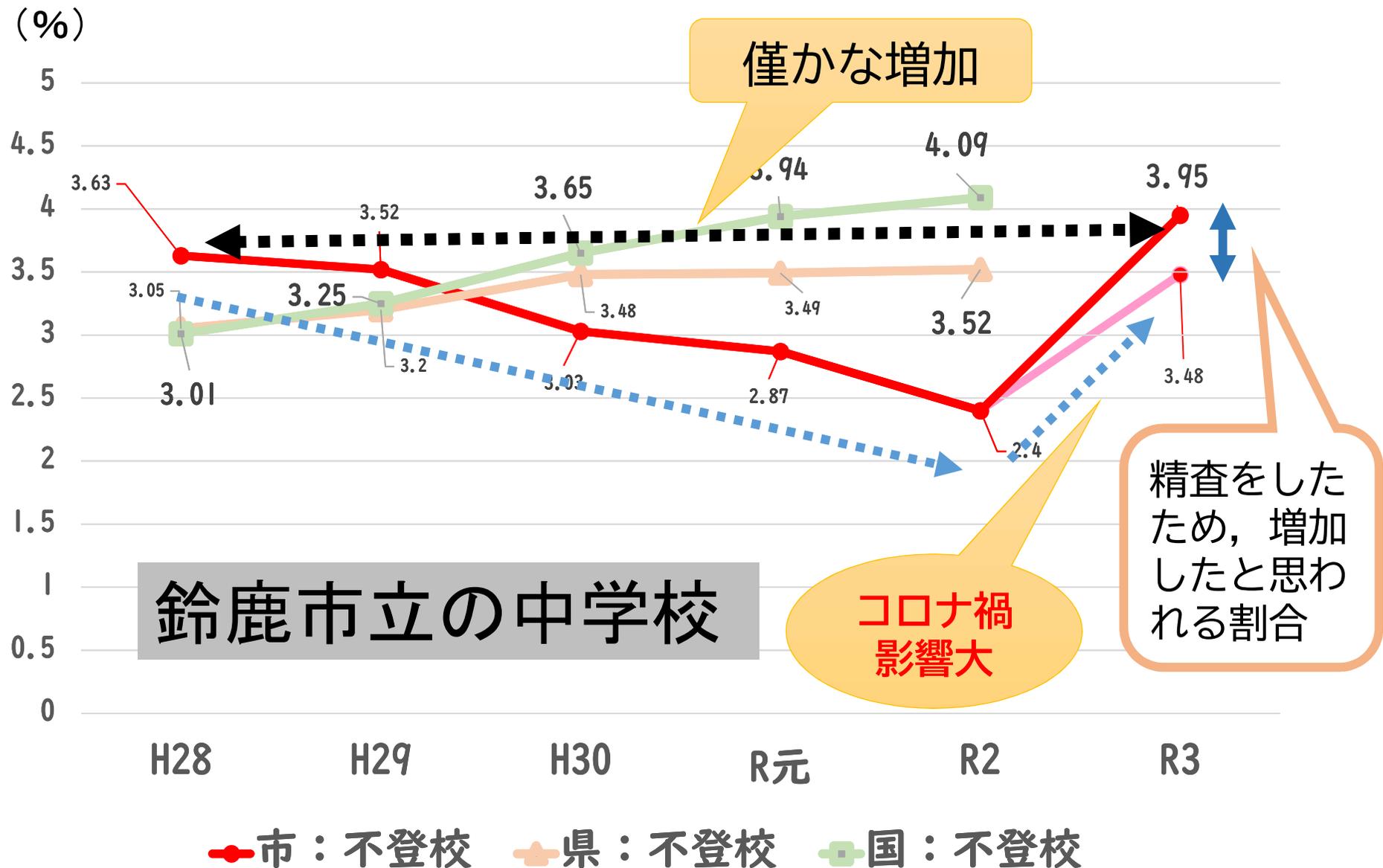
適切な支援に

コロナ禍
影響大

不登校児童生徒の割合の推移(中学校)



不登校児童生徒の割合の推移(中学校)



不登校児童生徒の割合の推移(中学校)

◆増加率が抑えられている要因

- 不登校担当者を中心とした組織的な対応
 - ・定期的な支援会議
 - ・不登校対策教育支援員による支援
 - ・不登校支援アドバイザーの積極的な活用
 - ・スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカーとの積極的な連携
- すべての中学校で**校内適応指導教室**での支援を実現
 - *居場所づくり 各学校に受け皿がある
- 対応できる職員がいる

中学校での適応指導教室〔例〕



社会的な背景要因①

① コロナ禍の影響

○ 学校生活での行事や活動の制限

○ 社会的距離の確保（マスク等）

表情がわかりにくく、相手の気持ちの理解が難しい

→ 人間関係に不安を抱える

○ 保護者自身の不安感の増大

○ 登校させることへの不安

社会的な背景要因②

② 保護者の意識の変化 ＊コロナ以外で

○教育機会確保法 「休養の必要性…」

(学校以外の場における学習活動等を行う不登校児童生徒に対する支援)
第十三条 国及び地方公共団体は、不登校児童生徒が学校以外の場において行う多様で適切な学習活動の重要性に鑑み、個々の不登校児童生徒の休養の必要性を踏まえ、当該不登校児童生徒の状況に応じた学習活動が行われることとなるよう、当該不登校児童生徒及びその保護者(学校教育法第十六条に規定する保護者をいう。)に対する必要な情報の提供、助言その他の支援を行うために必要な措置を講ずるものとする。

○学校以外にも「学びの場はある」という意識の浸透

○「登校すべき」という意識の弱体化

社会的な背景要因③

③ 特別な支援が必要な児童の対応

- 「発達の特性」等を持つ児童への理解
 - *通級指導教室への通室生が増加

④ その他

- 子どもの言い分, 要望等を尊重する
保護者の考え
- 家庭基盤の課題(虐待等の増加)

今後に向けての取組〔国〕

令和4年6月「不登校に関する調査研究協力者会議」報告書
～今後の不登校児童生徒への学習機会と支援の在り方について～

今後重点的に実施すべき施策の方向性

- ①誰一人取り残されない学校づくり
- ②困難を抱える児童生徒に対する支援ニーズの早期把握
- ③不登校児童生徒の多様な教育機会の確保
- ④不登校児童生徒の社会的自立を目指した中長期的支援

今後に向けての取組〔国〕

②困難を抱える児童生徒に対する支援ニーズの早期把握

a 不登校傾向のある児童生徒の早期発見 及び 支援ニーズの適切な把握

- ・ 日頃の状況をよく把握している学級担任や養護教諭，生徒指導担当者や教育相談担当者等とともに，SCやSSW等の専門家が連携し，学校や児童生徒への的確なアセスメント（見立て）を行い，ケース会議等において支援の在り方を検討する等，効果的な相談体制の構築が重要である。

今後に向けての取組〔国〕

②困難を抱える児童生徒に対する支援ニーズの早期把握

b 学校内の居場所づくり (校内の別室を活用した支援等)

- 学校での居場所として、校内の別室を利用した指導支援が有効な場合がある。
- オンラインやICTの活用も視野に入れつつ、校内の別室を活用して「校内教育支援センター（いわゆる校内適応指導教室）」などを設置し、退職教員やSC等を活用した学習支援や相談を行う等の取組を進めているところであり、不登校になる前の支援策の一つとして効果が期待される。

今後に向けての取組〔鈴鹿市〕

(1) 担当者の人材育成

○心理・医療の知識・理解のある職員の育成

(2) 居場所づくりを推進

○小学校に**校内適応教室**を開設

※「フリークラス（仮称）」

(3) 「学び」を止めない学校運営の推進

○「学び」とつながる手立て(オンラインの活用)

○「人」とつながる手立て(アウトリーチの充実)

今後に向けての取組〔鈴鹿市〕

(2)居場所づくりを推進 ＊小学校

○校内適応教室「フリークラス(仮称)」 の開設

◇教室に入りづらい児童：**121**人



* 仲間との人間関係の構築に不安を感じる

* 周囲に対する敏感さがあり恐怖を感じる

☆個々の課題の応じた**居場所づくり**が必要

- すでに教職員の工夫と努力で教室に入ることのできない児童の別室対応をしている学校も・・・

小学校での校内適応教室〔例〕



番号	名前	住所	お父
1	えいぞ	さくら	
2	さんま	さくら	かみ
3	しん	さくら	
4	りか	かみ	かみ
5	しん	さくら	
6	たい	さくら	

下校時 15:45 夏休みまで
6月10日(金曜日) 北27

さくらルームでは
あなたの いろいろなおはなしを
きいて
もらいます。
ときどきは あなたが
そうしたいのなら
あなたもします。
あなたの
くやしいおはなし、
なやんでいること
じまんしたいこと
や
うれしい おはなし、
だいすきな あそびや
きらいなこと
なんでも おはなしを
きかせてください。

今後に向けての取組〔鈴鹿市〕

(2)居場所づくりを推進 ＊小学校

○校内適応教室「フリークラス(仮称)」
期待される効果

- 1対1もしくは少人数での対応が可能。
- 自分のペースで学習を進めることが可能。
- 少しずつ人間関係の構築を学ぶことが可能。
- 学校内に居場所があることで登校や学校生活への意欲を高めることができる。 など

☆個々の特性の応じた**個別最適な支援**が可能に

今後に向けての取組 [鈴鹿市]

(2)居場所づくりを推進 * 小学校

小学校と中学校の比較

	小学校	中学校
正規職員	540人	301人
平均	18.0人	30.1人
担任外	62人	114人
平均	2.1人	11.4人
持ち時間	23.3時間	20.5時間
授業外の時間	5.7時間	8.5時間

●教員の配置人数が少ない。
・正規職員数 平均 -12.1人
・担任外 平均 -9.3人

●授業を担当していない時間が少ない。
・授業外の時間 平均 -2.8時間

中学校 → 教員数が多い
→ 授業外の時間も多し

校内適応教室の運営

令和4年度4月現在

今後に向けての取組 〔鈴鹿市〕

(2)居場所づくりを推進 ＊小学校

- 小学校は、配置教員数が少ない。
- 小学校は、授業外の時間が少ない。

☆居場所づくりに向けた**人的配置**が必要

○校内適応教室「フリークラス（仮称）」に使える場所の（余裕教室等）の確保が可能・・・21校/30校

小学校への校内適応教室を **2校** に設置

ご清聴ありがとうございました。